研究開発最前線特集に寄せて

株式会社富士通研究所
代表取締役社長
佐相秀幸

ICTの大きなパラダイムシフトやビジネス変革が，私たちを取り巻く環境を大きく変えようとしています。現在，人・モノ・情報やプロセスが相互につながりあう世界「ハイパーコネクテッド・ワールド」が出現し，「情報から知識を生み出す時代」が到来しています。これが新時代の産業革命であり，この新たな産業革命を，ICTが社会基盤として牽引していくことは必然であると考えています。

このような変革期の中，富士通研究所では「人，情報，インフラ」の三つの技術軸を柱としてICTのメガトレンドを策定し，それぞれに沿った事業化に向けた技術開発の推進，更には，将来これらの技術を進展させるために必要な基礎研究に取り組んでいます。

・人：人とモノ・情報をつなぐIoT（Internet of Things）デバイスと高速大容量ネットワーク
・情報：クラウドと連動する高セキュアな知能コンピューティング
・インフラ：次世代クラウドを支えるICTインフラと運用管理ソフトウェア

これまで個別に発展してきた三つの最先端技術を一体化させ，リアル世界とデジタル世界が融合した巨大なクラウドを形成することで，いつどこにいてもサービス，ソリューションや新たな価値の提供が可能な「ハイパーコネクテッド・クラウド」の実現を目指しています。

また，ICTの高度な利活用方法を，自然災害対策，社会インフラ保全などの社会問題の解決や，健康・医療，交通・物流，食・農業，教育などの分野に適用し，新たなビジネスを創出することも重要です。そこで，今までの産業・業態の枠組みを越えたビジネスモデルを立案し，新たなビジネス領域を開拓・展開するための応用研究にも注力しています。

更に，海外研究所を拠点として，富士通グループのプレゼンス向上，研究開発のオープンイノベーション推進，現地に密着した新たなビジネスの探索や領域拡大に向けたAct Local活動を強化しています。

こういった活動を通じて研究開発成果をPoB（Proof of Business），PoC（Proof of Concept）につなげて，国内外でビジネス展開していきたいと考えています。

本特集号では，富士通研究所のR&Dビジョン，最先端研究から応用研究までの研究開発の取組み，および海外拠点の活動についてご紹介いたします。

富士通は今年創立80周年を迎えました。長期にわたり企業や産業が成長し，社会が持続的に発展していく上でイノベーションは欠くことができません。イノベーションの創出には，インベンションとビジネスモデルの両方が必要です。富士通研究所は，これまで研究開発によるインベンションの追求に力点を置いていましたが，これからは，研究開発の応用を見据えたビジネスモデルの構築にも取り組んでいきます。しかし，富士通研究所だけでイノベーションを生み出すことは簡単なことではありません。そこで，お客様やパートナーの皆様と一緒になって考えることで，新たなビジネスや新市場の開拓を共創し，将来の社会の発展に貢献したいと思っています。